

後深草時代の女性

須田亮子

はじめに

小稿は、『とはずがたり』作者である後深草院二条の生きた当時の後宮の様子を探ることを目的としたものである。そのために後深草が天皇に即位した寛元四年（一二四六）～嘉元二年（一一三〇四）で崩御されるまでに確認される女性について調査した。今回確認することのできた女性について歴代皇女、歴代后妃、主要女房、主要女性の四つに分類し、それぞれを表にしてまとめた。

表を作成するにあたり、角田文衛監修『平安時代史事典』資料・索引編（角川書店）に収録されている「日本古代後宮表」を参考にした。また、それに後続する形で作成しているため書式は『平安時代史事典』資料編に拠っている。

なお、小稿で参考にした資料については、稿末に一覧にして示した。

一 歴代皇女表

後嵯峨皇女

名	后妃の列	位階	呼び名	父母	所生の皇子女	没年月	享年	備考
綜子内親王		内親王 准三宮		父 後嵯峨天皇 母 藤原姞子(大宮院)		文永6年3月	23	宝治元年11月1日、内親王。同2年正月20日、御百日(『葉黄記』)。同年3月23日、安嘉門院邦子の猶子となる(『百鍊抄』)。弘長3年7月20日准三宮、同日院号(月華門院)(『帝王編年記』、『統史愚抄』では7月27日)。
悦子内親王		内親王 准三宮		父 後嵯峨天皇 母 太政大臣公経 女 従三位貞子		元弘2年2月	74	弘安7年2月10日、26歳で内親王となり、28日准三宮、同日院号(延政門院)。同8年8月24日出家。
憚子内親王		内親王 准三宮		父 後嵯峨天皇 母 刑部卿孝時女。 (勾当内侍。刑部卿局。後坊門局)。	皇女	永仁2年11月	33	正応2年12月27日、28歳で内親王となり、10日准三宮、同日院号(五条院)。永仁2年11月25日死去。↓歴代后妃表(龜山)
愷子内親王		准三后		父 後嵯峨天皇 母 二条局		弘安7年2月		弘長2年12月4日伊勢斎宮となる。同5年8月28日、除服(『統史愚抄』)。文永9年2月27日後嵯峨院崩御により24歳で退下。文永11年秋の終わり頃から仁和寺あたりの衣笠に住む(『増鏡』)。大宮院(藤原姞子)がよく面倒を見た(『増鏡』)。建治元年10月ころ、後深草院が一時期、通うが、その後、西園寺実兼が面倒を見る(『増鏡』)。
姫宮		内親王	柳殿	父 後嵯峨天皇 母 刑部卿孝時女。 (勾当内侍、刑部卿局、後坊門局)		不詳		憚子内親王の同母妹。
姫宮				父 後嵯峨天皇 母 体子内親王(神仙門院)		弘安4年夏		

後深草時代の女性

名	后妃の列	位階	呼び名	父母	所生の皇子女	没年月	享年	備考
理子内親王				父 龜山天皇 母 藤原侂子(京極院)		文永元年 7月	3	
喜子内親王		内親王 准三宮	川端殿女院 土御門女院	父 龜山天皇 母 從三位雅平女。 從三位藤原雅子		元亨4年 3月	52	『一代要記』では「壽子内親王」とする。 永仁元年12月10日、21歳で内親王となり、永仁4年8月11日准三宮となり、同日院号(昭慶門院)。嘉元4年9月15日出家。
親子内親王				父 龜山天皇 母 從二位藤原祿子		弘安5年 8月		『二代要記』では「班子内親王」とする。 大宮院(藤原侂子)が養育する(『増鏡』)。

龜山皇女

名	后妃の列	位階	呼び名	父母	所生の皇子女	没年月	享年	備考
永子内親王		内親王 准三宮		父 後深草天皇 母 從一位相子 從二位藤原房子		建武5年 3月		正応4年12月15日内親王、永仁5年12月28日准三宮。延慶2年2月3日院号(章善門院)。正和5年8月27日出家。
嫺子内親王		内親王 准三宮		父 後深草天皇 母 太政大臣公相女。從一位相子		文和元年 8月	65	永仁2年2月29日内親王、同日准三宮。乾元元年3月15日院号(陽徳門院)。嘉元2年7月16日、後深草院崩御御素服に入り、26日御着服(『公衡公記』)。嘉元4年9月5日出家。観応3年8月11日死去。
久子内親王		内親王 准三宮 二位		父 後深草天皇 母 藤原惜子(玄輝門院)		貞和2年 4月	74	正徳4年4月6日、20歳で内親王、同日准三宮となる。永仁2年正月、二位に叙される(『統史愚抄』)。同年2月7日院号(永陽門院)。嘉元2年7月16日、後深草院崩御御素服に入り、27日御着服(『公衡公記』)。同年9月10日出家(『女院小伝』、『統史愚抄』では9月16日)。
始子内親王		皇后		父 後深草天皇 母 藤原公子(東二条院)		徳治2年 7月	38	正徳4年4月6日、20歳で内親王、同日准三宮となる。永仁2年正月、二位に叙される(『統史愚抄』)。同年2月7日院号(永陽門院)。嘉元2年7月16日、後深草院崩御御素服に入り、27日御着服(『公衡公記』)。同年9月10日出家(『女院小伝』、『統史愚抄』では9月16日)。
貴子内親王				父 後深草天皇 母 藤原公子(東二条院)		不詳		文永2年11月14日誕生(『統史愚抄』)。
姫宮				父 後深草天皇 母 藤原公子(東二条院)		文永10年 5月	12	弘長2年6月2日誕生(『一代要記』、『統史愚抄』)。

後深草皇女

名	后妃の列	位階	呼び名	父母	所生の皇子女	没年月	享年	備考
瑠子内親王				父 伏見天皇 母 左大臣実雄女。 従三位季子		延慶2年 3月	24	弘安10年誕生。延慶2年6月27日、准三宮となり、同日院号(朔平門院)。

伏見皇女

名	后妃の列	位階	呼び名	父母	所生の皇子女	没年月	享年	備考
姫宮				父 後宇多天皇 母 参議実俊女		不詳		
姫宮				父 後宇多天皇 母 大納言長雅		不詳		
愉子内親王		内親王 准三宮		父 後宇多天皇 母 参議宗親女		不詳		
祿子内親王		内親王 准三宮		父 後宇多天皇 母 愉子女王		不詳		永嘉門院に養育される(『増鏡』)。元心元年、内親王。嘉暦元年、出家。元心元年、准三宮、院号(崇明門院)。
柴子内親王	皇后宮	内親王 伊勢斎宮		父 後宇多天皇 母 藤原忠子(談天門院)		貞和4年 11月	63	尊治親王(後醍醐)の姉。 弘安9年誕生。乾元元年12月26日、17歳で内親王、徳治元年12月22日伊勢斎宮となり、徳治3年8月26日、後二条天皇崩御により22歳で退下。 文保3年3月29日皇后宮、11月15日院号(達智門院)、21日出家。

後宇多皇女

名	后妃の列	位階	呼び名	父母	所生の皇子女	没年月	享年	備考
姫宮				父 龜山天皇 母 正三位左中将実平女。(大納言典侍、三条局)		不詳		浄土寺撰政師教北政所となる(『帝王編年記』)。
姫宮				父 龜山天皇 母 樺子内親王(五条院)		不詳		龜山院の乳母按察二位の里で養育される(『増鏡』)。
姫宮				父 龜山天皇 母 京極院雑仕貫川		元徳元年		弘安7年8月14日、近衛関白家基に嫁ぎ(『増鏡』、『皇胤系図』、『統史愚抄』)、左大臣経平を産む(『帝王編年記』)。龜山院の乳母按察二位の里で養育される(『増鏡』)。

後深草時代の女性

名	后妃の列	位階	呼び名	父母	所生の皇子女	没年月	享年	備考
三善忠子		従一位 准三宮	一品局	父 三善康衡	深性法親王	不詳		『公衡公記』、『統史愚抄』では、『三善衡子』。『一代要記』では、父は「三善政平」、『帝王編年記』では「三善雅衡」。嘉元2年7月16日後深草院崩御素服に入る（『公衡公記』）。同年7月21日後深草院崩御に着服（『公衡公記』）。同年8月23日後深草院崩御の沙汰に奉仕する（『公衡公記』）。
藤原房子	御匣殿	従二位	二条局 御匣殿	父 三条内大臣公親	久明親王 行覚法親王 永子内親王 (章善門院)	不詳		
藤原某女	典侍		別当典侍 春日局	父 参議茂通卿	恒助法親王	不詳		
藤原公子	中宮	従三位		父 太政大臣西園寺実氏 母 大納言隆衡女。 従一位藤貞子	皇女 貴子内親王 姉子内親王 (遊義門院)	嘉元2年 正月	73	

後深草

二 歴代后妃表

進子内親王				父 伏見天皇 母 藤原氏		不詳		
延子内親王		内親王 准三宮		父 伏見天皇 母 左大臣実雄女。 従三位季子		9月 文保元年		正応4年誕生。王朝元年8月10日内親王となり、同日准三宮。同4年2月24日院号（延明門院）。文保元年9月28日出家。
誉子内親王		内親王 准三宮		父 伏見天皇 母 中納言公宗女。 従三位藤原英子		10月 建武3年		永仁3年8月15日内親王となり、同日准三宮。徳治2年4月22日院号。正和2年8月13日出家。

龜山

名	后妃の列	位階	呼び名	父母	所生の皇子女	没年月	享年	備考
藤原嬉子				父 太政大臣公相 母 太政大臣実基 女。従二位藤原教子 (実母は大外記師朝 女)		文保2年 4月	67	大宮院の猶子となる。 弘長元年4月23日、9歳で従三位に叙され、同年6月20日女御、 8月20日中宮となる(『一代要記』では6月14日入内。『統史愚抄』 では弘長元年6月14日入内、19日女御となる。文永5年12月6 日院号(今出河院)(『一代要記』では文永6年正月10日)。弘安6 年8月11日、31歳で出家(『公衡公記』、『統史愚抄』では8月13 日)。
藤原佶子	皇后	従三位		父 左大臣実雄 母 従二位藤原栄子	知仁親王 世仁親王 (後宇多天皇) 暁子内親王	文永9年 8月	28	文応元年12月7日16歳で従三位に叙せられ、11日、女御代とな り、22日入内、女御となる(『五代帝王物語』、『増鏡』では10月22 日。『女院小伝』では25日。『統史愚抄』では22日入内、25日女御 となる)。翌2年2月8日立后、中宮となり、8月20日皇后宮と なる。弘長2年11月8日、皇女・暁子内親王を産む(『統史愚 抄』、『一代要記』では9日)。文永2年7月11日、皇子・知仁親王 を産む(『一代要記』)。文永4年12月1日、皇子・世仁(後宇多天 皇)を産む(『一代要記』では11月20日)。文永9年2月23日、28 歳で出家。同年8月9日崩す(『統史愚抄』では7月9日)。同年 8月13日院号(京極院)(『一代要記』、『女院小伝』では8月9 日)。 兄の中納言公宗に慕われる(『増鏡』)。寵妃(『増鏡』)。

藤原成子		従二位	大納言二位	父 太政大臣公経	幸仁親王	不詳		
藤原相子		従一位 准三宮	長講堂准后 土御門准后	父 太政大臣公相	嬪子内親王 (陽徳門院)	不詳		弘安10年8月22日、深性法親王が仁和寺に入る時に同行する (『統史愚抄』)。同日、楽曲を伺候す(『後深草院御記』)。正応三 年正月19日、准三宮宣下(この後、長講堂准后または土御門准后 と称す)。
藤原佶子		従三位 准三宮	東御方	父 左大臣実雄 母 大納言隆房女。 従三位藤原臧子	熙仁親王 (伏見天皇) 性仁法親王 久子内親王 (永陽門院)	元徳元年 8月	84	藤原佶子(京極院)の妹。弘安3年正月8日、35歳で従三位に叙 せられる。文永2年4月23日、皇子・熙仁(伏見天皇)を産む。 正応元年12月16日准三宮、同日院号(玄輝門院)。正応4年8月 25日、46歳で出家。

後深草時代の女性

藤原某女	藤原某女	藤原某女	藤原某女	資子	藤原寿子	藤原祿子	藤原瑛子	平某女	藤原某女	藤原雅子	藤原位子
								典侍	典侍	典侍	女御
				従二位	従二位		従二位 准三宮			従三位	従三位 准三宮
	民部卿局				大宮院讃岐局 讃岐二位 京極局	三条局		師典侍	大納言典侍 三条局	中納言典侍 高倉局	
父 権中納言公雄	父 権中納言雅藤	父 権中納言実任	父 内大臣公親		父 大膳大夫景房	父 左大臣実雄	父 太政大臣実兼 母 内大臣通成女。 従一位顯子	父 兵部卿時仲	父 正三位実平	父 従二位雅平	父 深心院關白基平 少将通能朝臣女
恒雲法親王	道澄法親王	守良親王	性恵法親王	尊珍法親王	定良親王	理子内親王	恒明親王	順助法親王 慈道法親王 行圓法親王	聖雲法親王 覚雲法親王 九条師教の室	良助法親王 喜子内親王 (昭慶門院)	啓仁親王 繼仁親王
不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳	建武3年 6月	不詳	不詳	不詳	永仁4年 正月
							65				35
	はじめ今林准后(藤原貞子)に仕える。乾元元年7月3日、龜山法皇民部卿局に渡御あり(『統史愚抄』)。				もと大宮院女房(『増鏡』)。西園寺公相の猶子となる(『増鏡』)。	京極院の妹。龜山院、亡き京極院の面影を求めて通う(『増鏡』)。	太政大臣実兼の第二女。正安3年正月11日、龜山院、北山第に御幸し、瑛子を奪還する(『統史愚抄』)。同年正月16日、29歳で法皇宮に入り、3月16日従三位に叙せられ、19日准三宮、同日院号(昭訓門院)。(『統史愚抄』では3月13日従三位に叙せられる)。嘉元元年閏4月9日、皇子・恒明親王を産む(『統史愚抄』)。11日、御産御幸(『公衡公記』)。嘉元3年9月21日、32歳で出家。	『増鏡』では、師中納言為経の娘。			文永11年6月28日、13歳で上皇宮に入り、翌12年2月22日女御となり、同日従三位、准三宮、同年3月28日院号(新陽明門院)。(『統史愚抄』では、2月26日に女御。『一代要記』では4月に院号)。建治2年11月7日皇子・啓仁親王を産む(『統史愚抄』では11月17日)。弘安2年6月28日皇子・繼仁親王を産む(『増鏡』では8月)。正応2年、龜山院出家後、松殿宰相中将兼嗣の息の姫宮を産む(『増鏡』)。正応3年4月26日、29歳で出家。

後宇多

名	后妃の列	位階	呼び名	父母	所生の皇子女	没年月	享年	備考
源基子		准三后 従三位	東御方 二条局	父 内大臣具守 母 従三位平親継女	邦治親王 (後一条天皇)	文和4年 8月	87	新陽明門院(藤原位子)に仕える(『増鏡』)。弘安7年8月14日、着帯。弘安8年2月2日、皇子・邦治(後二条天皇)を産む(『統史愚抄』では3月1日夜)。徳治3年8月26日、後二条院死去により出家。延慶元年11月27日従三位に叙せられ、12月准三宮、同日院号(西華門院)。
藤原忠子	典侍	准三后 従三位	中納言典侍	父 参議忠繼 母 頭皇后宮亮高輔朝臣女。帥局	尊治親王 (後醍醐天皇) 承覚法親王 性圓法親王 皇子内親王 (達智門院)	元応元年 11月	52	正応元年11月2日、皇子・尊治(後醍醐天皇)を産む。永仁6年7月21日、21歳で従三位に叙せられ、正安3年7月20日准三宮となる。嘉元元年9月龜山院崩御により出家。文保2年4月12日院号(談天門院)。
始子内親王	皇后			父 後深草天皇 母 藤原公子(東二条院)	後一条准母	徳治2年 7月	38	永仁2年6月30日、上皇宮に入る。嘉元2年7月16日、後深草院崩御御素服に入る(『公衡公記』)。寵妃(『増鏡』)。↓歴代皇女表(後深草皇女)

源某女			大納言局	父 源通信	性覚法親王 性融法親王	不詳		『皇胤系図』、『二代要記』では、父は「左近衛少将宣通」、『本朝皇胤紹運録』、『諸門跡譜』では「左近衛少将通能」。
某女			三條局 廊方 師王殿廊御方 下野	父 僧玄駒	兼良親王	不詳		花山院通雅の猶子となる(『増鏡』)。弘安9年6月29日皇子・兼良親王を産む。
掬子女王			督局	父 中務卿宗尊親王		不詳		龜山院出家後、内大臣源有房の御子を産む(『増鏡』)。↓歴代后妃表(後宇多)
某女			貫川		皇女	不詳		はじめ准三宮藤原貞子に仕える。
某女					皇女	不詳		御霊社の巫女(『増鏡』)。京極院(藤原侂子)の雑仕。
某女					皇女	不詳		皇女を産む(『増鏡』)。↓主要女房表(龜山朝)
某女					皇女	不詳		皇女を産む(『増鏡』)。↓歴代皇女表(後嵯峨皇女)
某女		内親王		父 後嵯峨天皇 母 孝時入道女。刑部卿局。勾当内侍	皇女	永仁2年 11月	33	乾元元年8月27日、龜山法皇、権大納言典侍某に幸す(『統史愚抄』)。
某女			権大納言典侍	父 実盛		不詳		

後伏見

某女	某女	高階某女	藤原某女	藤原某女	藤原寧子	名
					女御	后妃の列
				従三位	准三后 従三位	位階
		堀河局 別当局	廊御方	对御方		呼び名
		父 従二位邦経	父 権大納言実明	父 権大納言実明	父 左大臣公衡 母 従一位前兼子	父母
皇女	尊胤法親王	法守法親王	皇子 皇女	尊実法親王 尊省親王 皇女	花園天皇准母 量仁親王 (光厳天皇) 豊仁親王 (光明天皇) 景仁親王 珣子内親王 (新室町院) 皇女某	所生の皇子女
不詳	不詳	不詳	不詳	応安5年 2月	延文2年 閏7月	没年月
					66	享年
			はじめ宣光門院(藤原実子)に仕える。		乾元元年正月21日、伏見院の猶子となる。嘉元4年4月15日、15歳で上皇宮に入る。延慶2年正月9日従三位に叙せられ、13日、准三宮となり、同日院号(広義門院)。正和2年7月9日、皇子・量仁(光厳天皇)を産む。元亨元年12月23日には皇子・豊仁(光明天皇)を産む。建武3年2月25日、45歳で出家。	備考

某女	某女	源親子
		典侍
西御方	治部卿局 春日局	権大納言局
	父 僧任快	父 源具氏
聖珍法親王	恵助法親王	尊悟法親王
不詳	不詳	不詳
はじめ広義門院(藤原寧子)に仕える(『本朝皇胤紹運録』)。	『統史愚抄』では、父は「信快」。	↓主要女房表(後宇多朝)、主要女房表(伏見朝)。

三 主要女房表

後深草朝

氏名	官名	位階	呼び名	宮仕先	備考
某女	掌侍			後嵯峨院	寛元4年正月29日讓位奉仕(『葉黄記』)。同年正月29日、春宮受禪、後嵯峨院内侍、劍璽を取る(『資季卿記』)。
藤原佳子	尚侍				寛元4年正月7日、御行始(『葉黄記』)。建長5年9月19日午刻、死去、年26歳(『一代要記』)。
藤原能子	乳母		大納言一品	後嵯峨院	後嵯峨天皇乳母。寛元4年正月23日定頼朝臣の来訪を受ける(『葉黄記』)。同年2月1日院旨を伝える(『岡屋関白記』)。同年5月16日布施、20日八幡御幸に参仕、25日放生(『葉黄記』)。同年8月25日奉書を後嵯峨院院司定嗣に送る(『葉黄記』)。宝治元年正月18日院御使となり、4月17日、北野多宝塔を供養する(『葉黄記』)。同年7月23日、皇子(性助)降誕を内々に沙汰する(『葉黄記』)。
某女	掌侍		尾張内侍	内裏	寛元4年正月29日、春宮受禪、春宮内侍、劍璽を取る(『資季卿記』)。
某女	掌侍		伊予内侍	内裏	寛元4年正月29日讓位に奉仕する(『葉黄記』)。同年3月10日奏聞(『吉黄記』)、『経俊卿記』。建長2年秋、物のまね(『弁内侍日記』)。
某女			宰相局	内裏	雅経の娘。寛元4年正月宣旨(雅経女)(『葉黄記』)。
藤原博子	掌侍		勾当内侍 刑部卿 後坊門局	内裏	藤原孝時の娘。琵琶の名手。女工所(悠紀方)の内侍。寛元4年5月20日余日、閑院内裏連歌会(『弁内侍日記』)。宝治3年正月1日、寅時四方拜の御供にあたる(『弁内侍日記』)。同年正月15日、粥杖(『弁内侍日記』)。建長元年2月1日、閑院殿炎上(『弁内侍日記』)。建長2年秋、物のまね(『弁内侍日記』)、『増鏡』。同年10月13日、鳥羽殿へ朝覲の行幸。髪上げの内侍(『弁内侍日記』)。建長3年6月28日、閑院殿へ遷幸。髪上の内侍(『弁内侍日記』)。後嵯峨院の後宮に入り、覚助法親王、五条院(懺子内親王)、皇女を産む。
藤原近子	典侍		按察三位 按察典侍	内裏	四條隆衡の娘。寛元4年3月11日、即位賽帳命婦に奉仕(左)、隆衡女(『御即位部類』)、『女王部類記』では「右」。閏4月2日、火災行幸に同輿(『葉黄記』)。同年12月15日、内侍所御神楽に参向する(『弁内侍日記』)。宝治3年正月1日、寅時四方拜の御供にあたる(『弁内侍日記』)。建長2年秋、物のまね(『弁内侍日記』)。康元元年11月17日豊明節会。出車、二の左に乗車(『増鏡』)では11月17日)。
某女	掌侍		少納言内侍	内裏	寛元4年12月15日、内侍所御神楽に参向する(『弁内侍日記』)。

後深草時代の女性

後深草時代の女性

藤原某女	典侍		官内卿典侍	内裏	藤原頭氏の娘。 寛元4年8月16日、五節所にて御遊が催される。御留守にあたる『弁内侍日記』。建長元年2月1日、常の御所に祇候する。閑院殿炎上『弁内侍日記』。建長2年秋、物のまね『弁内侍日記』。建長3年秋、後嵯峨院御所で管絃講が行われる。箏を奏でる『弁内侍日記』。
某女			小宰相	土御門院	宝治元年、土御門院女房『続古今集』。
某女			越前	嘉陽門院	宝治元年百三十番歌合、嘉陽門院女房。
某女			小宰相	承明門院	宝治元年百三十番歌合、承明門院女房。宝治2年7月25日百首、承明門院女房『宝治百首』。
藤原某女			按察	鷹司院	正三位権中納言葉室定嗣の妹。 宝治2年正月18日百首和歌『葉黄記』。
某女			高倉	安嘉門院	親儀法印の娘。 宝治2年正月18日百首和歌、親儀法印女『葉黄記』。宝治2年7月25日百首安嘉門院女房『宝治百首』。
某女			下野	後鳥羽院	宝治元年百三十番歌合、後鳥羽院女房。 宝治2年7月25日、祝部氏『宝治百首』。
某女			但馬	藻壁門院	宝治2年7月25日、百首、藻壁門院女房『宝治百首』。
藤原某女	典侍		大納言典侍	内裏	民部卿為家の娘。 宝治2年10月21日、紅葉御覽のため宇治御幸に参仕する、為家女『通雅公記』、『増鏡』。
源親子	乳母	従二位	大納言二品 嵯峨二品	後嵯峨院	源通親の娘。後嵯峨院御乳母『尊卑分脈』。 寛元4年正月15日、宰相典侍(平棟子)とともに兼経第に訪問、鷹司院出家について話合う『岡屋関白記』。同年2月1日、越前国について後嵯峨上皇の意向を伝える『岡屋関白記』。宝治2年10月21日、宇治御幸に参仕『通雅公記』。建長元年2月14日、後嵯峨上皇、親子第に御幸あり『岡屋関白記』。建長2年6月15日、北野の鐘を鑄造する『百鍊抄』。建長3年閏9月20日、兼経より書状が送られる『岡屋関白記』。建長6年7月24日、院御方違にて嵯峨二品亭に御幸あり『経俊卿記』。 正嘉元年3月3日、出家『百鍊抄』。同月24日、逆修結願『経俊卿記』。
某女	采女		播磨局		宝治2年11月8日以降、東寺仲綱と撰津垂水荘の公文職を相論『東寺百合文書』。
藤原則子	乳母	従三位			範兼の娘。後嵯峨院の乳母『公卿補任』。
藤原某女			鷹司院大式	安喜門院	少納言為綱の娘、源信基朝臣に嫁ぐ『尊卑分脈』。
藤原某女			鷹司院御匣殿	鷹司院	内大臣道経の娘。
藤原季子		従二位	南御方	大宮院	大宮院女房『尊卑分脈』。↓主要女性表
源某女			後鳥羽院宮内卿	後鳥羽院	左京権大夫師光の娘。歌人『尊卑分脈』。
大中臣某女			美作	後嵯峨院	院女房、大中臣能隆女『諸家系図纂』。

大中臣某女				新少納言	後嵯峨院	院女房、大中臣隆通女(『諸家系図纂』)。
藤原某女				二条局	後嵯峨院	大炊助俊盛の娘。後嵯峨の後宮に入り、建長元年、愷子内親王を産む(『本朝皇胤紹運録』)。
某女				美濃	内裏	宝治3年正月15日粥杖(『弁内侍日記』)。
某女				宣旨	内裏	建長元年2月1日、閑院殿炎上(『弁内侍日記』)。
藤原某女				大納言典侍	内裏	藤原隆親の娘(『増鏡』では「隆衡の女」)。
藤原某女	典侍					建長2年秋、物のまね(『弁内侍日記』、「増鏡」)。
某女				卿局	後嵯峨院	大納言隆親の娘。
藤原某女				少納言		建長8年4月24日賀茂祭典侍(四条大納言女子)(『経俊卿記』)。
藤原某女				一条殿		建長8年5月27日(院女房)(『経俊卿記』)。同年6月2日(院女房)(『経俊卿記』)。同年6月10日(院女房)(『経俊卿記』)。
藤原某女				二条殿		藤原美任の娘。
某女				按察殿		藤原美任の娘。
某女				中納言		藤原美任の娘。
某女				民部卿		藤原美任の娘。
某女				别当		藤原美任の娘。

龜山朝

氏名	官名	位階	呼び名	宮仕先	備考
藤原某女			大宮殿		三位中将実平の娘。 文応元年10月22日、藤原侔子(京極院)入内。出車、一の左に乘車(『増鏡』)。
藤原某女			新大納言		藤原為家の娘。 文応元年10月22日、藤原侔子(京極院)入内。出車、二の左に乘車(『増鏡』)。
某女	雑仕		青柳	京極院	文応元年10月22日、藤原侔子(京極院)入内。侔子の雑仕となる(『増鏡』)。
某女	雑仕		梅が枝	京極院	文応元年10月22日、藤原侔子(京極院)入内。侔子の雑仕となる(『増鏡』)。
某女	雑仕		高砂	京極院	文応元年10月22日、藤原侔子(京極院)入内。侔子の雑仕となる(『増鏡』)。
某女	雑仕		貫川	京極院	文応元年10月22日、藤原侔子(京極院)入内。侔子の雑仕となる(『増鏡』)。 ↓歴代后妃表(龜山)

後深草時代の女性

氏名	官名	位階	呼び名	宮仕先	備考
某女	掌侍		勾当内侍	内裏	通行の室となる。 弘長2年10月6日所生の通行男、出家〔経俊卿記〕。文永10年10月20日、里へ出る〔増鏡〕。
某女			刑部卿の君	内裏	文永2年9月13日、龜山殿御歌合〔増鏡〕では弘長3年のこととする。披講の後の御遊で、藤原愔子(東の御方)と箏を奏する〔増鏡〕。
某女	掌侍		少納言内侍	内裏	文永4年4月3日、平野臨時祭〔吉統記〕。
某女	典侍		別当典侍	内裏	文永5年6月23日頓死(禁裏女房)〔吉統記〕。
藤原為子	典侍	従五位下		内裏	文永10年4月13日典侍に任じられる〔吉統記〕。
藤原某女	乳母			内裏	内大臣公親の娘。 文永11年正月26日、後宇多踐祚に奉仕する〔増鏡〕。
源某女			二条	後深草院	大納言雅忠の娘。 建治元年10月ころ、龜山殿御幸に奉仕する。「なにがしの大納言の女」〔増鏡〕。弘安元年3月、龜山院の持明院殿御幸に奉仕する。「上臈だつ大おとこの孫」〔増鏡〕。↓主要女房表(伏見朝)
某女			別当君		弘安元年3月、龜山院の持明院殿御幸に奉仕する〔増鏡〕。
仲子	典侍	従五位下		内裏	弘安2年4月6日典侍仲子、従五位下に叙せられる〔吉統記〕。
某女	典侍		帥典侍		弘安3年5月13日、新陽明門院の沙汰により御逆修七々日。〔勘仲記〕
藤原経子	掌侍		新内侍 中務内侍	東宮・熙仁	従三位永経の娘。 弘安3年伏見殿御儀法の御供〔中務内侍日記〕。弘安7年7月5日、北山殿行啓に御供をする〔中務内侍日記〕。弘安10年10月10日ころ、初瀬へ向けて出発し、20日ころ帰京する〔中務内侍日記〕。↓主要女房表(伏見朝)
某女			左衛門督の殿	東宮・熙仁	弘安3年伏見殿御儀法の御供〔中務内侍日記〕。
某女	内侍殿			東宮・熙仁	弘安3年伏見殿御儀法の御供〔中務内侍日記〕。
藤原某女			宰相殿	後深草院 東宮・熙仁	左中将藤原親忠(本、経忠)の娘。後深草院宰相〔尊卑分脈〕。 弘安3年伏見殿御儀法の御供〔中務内侍日記〕。弘安8年7月5日、北山殿行啓に御供をする〔中務内侍日記〕。弘安9年4月25日ころ、御所を退出して里に退く〔中務内侍日記〕。↓主要女房表(伏見朝)「新宰相」
藤原某女			宮内卿	東宮・熙仁	藤原季範の娘。 弘安3年伏見殿御儀法の御供〔中務内侍日記〕。弘安8年7月5日、北山殿行啓に御供をする〔中務内侍日記〕。↓主要女房表(伏見朝)

後宇多朝

藤原光子							三品従三位基光の娘。 弘安4年4月20日賀茂祭女使(『勘仲記』)。
某女		三位殿御局	東宮・熙仁	弘安5年4月17日、嵯峨殿の御留守。御供(『中務内侍日記』)。			
某女		大納言殿	東宮・熙仁	弘安5年4月17日、嵯峨殿の御留守。御供(『中務内侍日記』)。弘安7年3月17日、嵯峨殿の御留守に御遊あり。御供をする(『中務内侍日記』)。弘安8年7月5日、北山殿行啓に御供をする(『中務内侍日記』)。			
某女	典侍	別当殿	東宮・熙仁	弘安5年4月17日、嵯峨殿の御留守。御供(『中務内侍日記』)。			
某女		按察局	今出河院	侍従三位雅有の娘。 弘安6年4月25日賀茂祭女使(『勘仲記』)。			
藤原某女		大納言局	今出河院	弘安6年8月13日(今出河院女房)(『公衡公記』)。			
某女		右衛門督局	今出河院	藤原(京極)為教の娘。今出河院女房。 弘安6年8月13日今出川院御出家に所役。近日出家(『公衡公記』)。			
某女		侍従局	今出河院	弘安6年8月13日今出川院御出家に伴い出家。(『公衡公記』)。			
某女		新大納言局		安芸守季衡の娘。 弘安6年10月15日今出川院御出家に伴い出家する(『公衡公記』)。			
某女		中納言典侍	新陽明門院	弘安6年10月15日矢野庄を拝領する(『勘仲記』)。			
某女		弁内侍		太宰権帥経任の娘。 弘安7年2月5日、春日祭女使(『勘仲記』)。			
某女		対の御方	東宮・熙仁	弘安7年3月17日、嵯峨殿の御留守に御遊あり。御供をする(『中務内侍日記』)。			
某女		冷泉殿	東宮・熙仁	弘安7年3月17日、嵯峨殿の御留守に御遊あり。御供をする(『中務内侍日記』)。			
源親子		権大納言殿	東宮・熙仁	弘安7年3月17日、嵯峨殿の御留守に御遊あり。御供をする(『中務内侍日記』)。			
某女		大蔵局	東宮・熙仁	源具氏の娘。 弘安8年7月5日、北山殿行啓に御供をする(『中務内侍日記』)。↓歴代后妃表(伏見)・主要女房表(伏見朝)			
藤原某女	乳母	按察一品	龜山院	弘安7年7月9日、経頼朝臣と四条屋地相論のことあり(『勘仲記』)。			
某女		右衛門督		龜山院乳母。 弘安7年春、死去(『増鏡』)。弘安7年8月14日龜山上皇の御幸あり(『勘仲記』)。弘安9年閏12月12日一周忌(『統史愚抄』)。↓主要女房表(後伏見朝)			
藤原資子	典侍			弘安8年2月、北山准后貞子の九十賀で箏を奏でる(『増鏡』)。 範長朝臣の娘。民部卿資宣の猶子。 弘安9年4月13日賀茂祭の女使となる(『勘仲記』)。			

後深草時代の女性

氏名	官名	位階	呼び名	宮仕先	備考
藤原親子	典侍	従五位下		内裏	左兵衛督の娘。 弘安10年4月25日、賀茂祭の女使となる『勘仲記』。弘安11年4月13日、女官除目『勘仲記』。
某女			高内侍		弘安10年10月21日後宇多讓位に劍に侍す『伏見天皇宸記』。
藤原某女			少将内侍	内裏	輔益の娘。 弘安10年10月21日後宇多讓位に璽に侍す『後深草院御記』、『伏見天皇宸記』、『中務内侍日記』。同年12月25日、北山殿御方達の行幸始『中務内侍日記』。正応元年3月15日即位扈從(輔益女)『後深草院御記』、『中務内侍日記』。同年10月21日、御禊の義行幸。出御の内侍となつて、劍璽の役に奉仕する『中務内侍日記』。同年11月22日、廻立殿の行幸に参る『中務内侍日記』。同年11月28日劍を取る『伏見天皇宸記』。正応2年12月16日劍璽に侍す『伏見天皇宸記』。正応5年2月1日内侍所供神物『伏見天皇宸記』。
某女	典侍		大納言典侍		弘安10年10月21日後宇多讓位に所役『伏見天皇宸記』。
源親子	典侍		権大納言典侍	内裏	弘安10年12月25日、北山殿御方達の行幸始『中務内侍日記』。正応2年3月1日、内侍所神楽『伏見天皇宸記』。正応3年3月9日夜、浅原為頼事件『増鏡』。↓歴代后妃表(伏見)・主要女房表(後宇多朝)
高階典子	掌侍		勾当内侍	内裏	弘安10年10月21日、後宇多天皇讓位、左より御劍をとる『中務内侍日記』。同年11月9日、春日祭の内侍使となる『中務内侍日記』。同年12月25日、北山殿御方達の行幸始『中務内侍日記』。正応元年3月3日『後深草院御記』。同年10月21日、大嘗会御禊の行幸に女工所の内侍(悠紀)として乗馬で供奉『中務内侍日記』。同年3月15日即位劍璽奉仕『後深草院御記』。正応2年2月1日内侍所御供『伏見天皇宸記』。正応3年正月7日白馬節会に奉仕する『伏見天皇宸記』。
藤原永子	典侍			内裏	弘安10年12月10日、典侍に任じられる『伏見天皇宸記』。
藤原経子	掌侍		新内侍 中務内侍	内裏	弘安10年12月10日掌侍に任ぜらる『伏見天皇宸記』。同年12月25日、北山殿御方達の行幸始『中務内侍日記』。弘安11年2月5日、春日祭の内侍使となる『中務内侍日記』。正応元年3月15日即位劍璽に奉仕『後深草院御記』。同年10月21日、大嘗会御禊の行幸に女工所の内侍(主基)として乗馬で供奉『中務内侍日記』。正応3年3月9日夜、浅原為頼事件『増鏡』。正応5年2月までは内裏の局住みをして出仕していた『中務内侍日記』。↓主要女房表(後宇多朝)

□子
弘安9年5月20日、皇太子(伏見)、秘曲伝授のことあり。楽曲伺候『後深草院御記』。

伏見朝

後深草時代の女性

某女					正応元年正月2日陪膳に侍す(『伏見天皇宸記』)。
藤原榮子	典侍	従二位		内裏	正応元年3月15日即位寮帳に奉仕する(『伏見天皇宸記』)。 ↓主要女房表(後深草朝)
〇子				内裏	仲資王(本名 顯順)の娘(『尊卑分脈』)。
業子女王				内裏	正応元年3月15日、即位奉仕(『後深草院御記』)。
某女	命婦	伯耆		内裏	正応元年3月15日、即位奉仕(御前命婦)(『後深草院御記』)。 『中務内侍日記』では「は、木」の名前で「威儀命婦」。正応元年10月21日、大嘗会御禊の行幸に供奉(『中務内侍日記』では「は、木」)。
某女	命婦	讃岐		内裏	正応元年3月15日、即位奉仕(御前命婦)(『後深草院御記』)。 『中務内侍日記』では「威儀命婦」。
某女	命婦	備前		内裏	正応元年3月15日、即位奉仕(御前命婦)(『後深草院御記』)。 『中務内侍日記』では「威儀命婦」。
某女	命婦	玉垣		内裏	正応元年3月15日、即位奉仕(御前命婦)(『後深草院御記』)。 『中務内侍日記』では「威儀命婦」。
某女	命婦	御阿礼野		内裏	正応元年10月21日、大嘗会御禊の行幸に供奉(『中務内侍日記』)。
某女	命婦	伊豆奴支		内裏	正応元年3月15日、即位奉仕(威儀命婦)(『後深草院御記』)。 『中務内侍日記』では「御前命婦」。
某女	命婦	宮人		内裏	正応元年3月15日、即位奉仕(威儀命婦)(『後深草院御記』)。 『中務内侍日記』では「御前命婦」。
某女	命婦	石川		内裏	正応元年3月15日、即位奉仕(威儀命婦)(『後深草院御記』)。 『中務内侍日記』では「御前命婦」。
某女		左衛督		内裏	隆盛の娘。 正応元年3月15日、即位奉仕(隆盛女)(『後深草院御記』)。 『中務内侍日記』では「右衛門督殿」。
某女		新右兵衛督		内裏	公光の娘。 正応元年3月15日、即位奉仕(公光女)(『後深草院御記』)。 『中務内侍日記』では「新左衛門督殿」。
藤原某女		新宰相		内裏	正応元年3月15日即位扈從(經忠女)(『後深草院御記』)。 ↓主要女房表(後宇多朝)
藤原某女		宮内卿		内裏	正応元年3月15日即位扈從(『後深草院御記』)。 『中務内侍日記』。↓主要女房表(後宇多朝)
某女		治部卿殿		内裏	正応元年3月15日即位扈從(『中務内侍日記』)。
源某女		一条殿			内大臣通成の娘。従一位源顯子の妹。 正応元年6月2日、藤原鐔子(永福門院)の入内。出車、一の左に乗車(『増鏡』)。
藤原某女		二条殿			宰相中将実顯の娘。実兼の猶子となる。 正応元年6月2日、藤原鐔子(永福門院)の入内。出車、一の右に乗車(『増鏡』)。
源某女		三条			正応元年6月2日、藤原鐔子(永福門院)の入内。出車、二の左に乗車(『増鏡』)。 大納言雅忠の娘「二条」と同一人物。↓主要女房表(後宇多朝)

源某女			近衛殿		大納言雅家の娘。 正応元年6月2日、藤原鐙子（永福門院）の入内。出車、二の右に乗車（『増鏡』）。
藤原某女			大納言の君		室町宰相中将公重の娘。 正応元年6月2日、藤原鐙子（永福門院）の入内。出車、三の左に乗車（『増鏡』）。
藤原某女			新大納言		三位中将兼行の娘。 正応元年6月2日、藤原鐙子（永福門院）の入内。出車、三の右に乗車（『増鏡』）。
藤原某女			宰相の君		坊門三位基輔の娘。 正応元年6月2日、藤原鐙子（永福門院）の入内。出車、四の左に乗車（『増鏡』）。
藤原某女			御代一位		治部卿兼倫三位の娘。 正応元年6月2日、藤原鐙子（永福門院）の入内。出車、四の右に乗車（『増鏡』）。
某女			淡路	内裏	正応元年10月21日、大嘗会御禊の行幸に供奉（『中務内侍日記』）。
某女	命婦		肥前	内裏	正応元年10月21日、大嘗会御禊の行幸に供奉（『中務内侍日記』）。
某女	命婦		すむつる	内裏	正応元年10月21日、大嘗会御禊の行幸に供奉（『中務内侍日記』）。
某女	蔵人		得選をとらぬ	内裏	正応元年11月12日、主基の女工所に奉仕する（『中務内侍日記』）。
某女	采女		得選おとゝい	内裏	正応元年11月12日、主基の女工所に奉仕する（『中務内侍日記』）。
三善某女			播磨内侍	中宮・鐙子 （永福門院） 東宮・胤仁 内裏	三善俊衡の娘。 正応元年11月28日、劍璽を取る（『伏見天皇宸記』）。正応2年4月25日、春宮内侍となる（中宮女房、俊衡女）（『公衡公記』）。同年12月16日、劍璽に侍す（『伏見天皇宸記』）。正応3年正月1日、劍璽を持つ（『伏見天皇宸記』）。正応5年正月1日、陪膳（『伏見天皇宸記』）。
某女			新大納言局	今出河院	公行の娘。 正応2年正月2日、龜山上皇御所禪林寺殿にて所役（『公衡公記』）。正応2年正月22日、伺候（中宮女房）（『公衡公記』）。
藤原某女			藤大納言		藤原（京極）為教の娘。 正応2年正月17日、和歌御会。同年4月25日（中宮女房）（『公衡公記』）。
源某女	典侍		権大納言典侍	内裏	北畠師親の娘。 正応2年正月17日、和歌御会（『公衡公記』）。
某女	命婦		参河	中宮・鐙子 （永福門院）	有光の娘。 正応2年4月24日、賀茂祭女使（中宮女房）（『公衡公記』）。
某女	蔵人			中宮・鐙子 （永福門院）	時景の娘。 正応2年4月24日、賀茂祭女使（中宮女房）（『公衡公記』）。

後深草時代の女性

源某女			源大納言	中宮・鐙子 (永福門院)	雅家の娘。 正応2年4月25日(中宮女房)『公衡公記』。
某女			別当	中宮・鐙子 (永福門院)	藤原親朝の娘。 正応2年4月25日(中宮女房)『公衡公記』。
某女			伊予	中宮・鐙子 (永福門院)	基広の娘。 正応2年4月25日台盤所別当(中宮女房、基広女)『公衡公記』。正応5年正月1日陪膳役送
某女			宮内卿	東宮・胤仁	正応2年4月27日(春宮女房)『公衡公記』。
藤原某女			御匣殿	内裏	花山院内大臣師繼の娘。 正応3年正月1日、元日の節会に奉仕する『増鏡』。
某女			やすよ	内裏	正応3年3月9日夜、浅原為頼事件(中務内侍日記)。
某女	典侍		權中納言典侍	内裏	正応5年正月1日陪膳(『伏見天皇宸記』)。
某女			美濃	内裏	正応5年正月1日陪膳役送(『伏見天皇宸記』)。
某女			新准后	東二条院	永仁元年6月7日東二条院(藤原公子)出家に指燭を指す『公衡公記』。
某女			冷泉局		公泰の娘。 永仁元年6月7日東二条院(藤原公子)出家に所役(公泰女)『公衡公記』。
藤原某女			御五	東二条院	藤原実平の娘。 永仁元年6月7日東二条院(藤原公子)出家に所役(公衡公記)。
藤原仲子		從五位下			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
賀茂氏子	藏人	從五位下			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
藤原朝子		從一位			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
藤原朝子	掌侍	從五位下			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
平春子	采女	從五位上			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
源満子	命婦	從五位下			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
紀清子		從五位下			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
藤原清子		從五位下			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
橘以子		從五位下			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
藤原景子		從五位下			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
和氣晴子		從五位下			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
中原村子	女史	從五位下			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。
源黒子	水取	從五位下			永仁2年正月8日女叙位(『勘仲記』)。

橘次子	掌縫	從五位下		永仁2年正月8日女叙位〔勘仲記〕。
藤原油子	女孀	從五位下		永仁2年正月8日女叙位〔勘仲記〕。
某女			帥局	永仁2年5月8日、兼仲卿の箕面寺參詣に従う〔勘仲記〕。
某女			二品局	永仁2年5月8日、兼仲卿の箕面寺參詣に従う〔勘仲記〕。
			内裏	

後伏見朝

氏名	官名	位階	呼び名	宮仕先	備考
藤原某女	典侍				御乳母藤中納言俊光の娘。 永仁6年10月13日、賽帳右典侍某子〔統史愚抄〕。
某女			少納言局		永仁6年11月26日伏見院御所密々宴に箏を弾く〔公衡公記〕。
某女			治部卿局		永仁6年11月26日伏見院御所密々宴に箏を弾く〔公衡公記〕。
源某女					内大臣具守の娘（実父は左衛門督具俊）。 永仁6年10月25日、大嘗祭御禊で女御代となる〔統史愚抄〕。

四 主要女性表

氏名	位階	呼び名	備考
藤原仁子	從一位	摩殿	藤原道家の娘、兼経の室。内大臣正二位基平、権僧正信昭を産む〔帝王編年記〕。 寛元4年正月3日、夫兼経と齒固〔岡屋関白記〕。同年正月5日、娘とともに河臨祓をする〔岡屋関白記〕。同年正月11日、四条第に方違をする〔岡屋関白記〕。同年正月17日、春日行幸を夫兼経と見物する〔岡屋関白記〕。同年2月5日、春日社に参籠し、12日晩に帰洛する〔岡屋関白記〕。同年4月13日、夫兼経とともに春日万里小路第に方違をする〔岡屋関白記〕。同年4月20日、南都下向のため大宮第に向かい、翌日、長谷寺参籠のために下向し、閏4月9日に帰洛する〔岡屋関白記〕。この頃懐妊する〔岡屋関白記〕。同年6月19日、着帯。26日より御産のための祈禱が始まる〔岡屋関白記〕。同年10月10日男子を産む〔葉黄記〕。宝治元年正月26日、兼経参内を見物する〔撰関詔宣下類聚〕。同年12月17日御産（殿下北政所）〔経俊御記〕。宝治2年12月14日、千度祓〔岡屋関白記〕。建長元年正月23日、男子を産む〔岡屋関白記〕。建長2年6月26日、春日社に参籠し、30日には長谷寺に参る〔岡屋関白記〕。同年10月14日、從一位に叙せられる〔岡屋関白記〕。建長3年7月19日、夫兼経とともに宇治に向かう〔岡屋関白記〕。同年9月18日、左大臣兼平とともに武蔵の原別業に向かう〔岡屋関白記〕。
藤原某女			藤原実基の娘。 寛元4年10月24日、大嘗会御禊の女御代〔百鍊抄〕。

後深草時代の女性

藤原某女			権中納言光雅の娘。右大臣師経の室となり、定嗣を産む(『尊卑分脈』)。寛元4年11月6日、師経室他界(『葉黄記』)。
藤原某女			藤原俊成の娘。 宝治元年百三十番歌合。宝治2年正月18日百首和歌(『葉黄記』)。同年7月25日百首(『宝治百首』)。
北条某女			北条泰時女。将軍藤原頼朝室。 宝治元年5月13日死去(『百鍊抄』)。
西蓮			源通光後室。出家して西蓮と号す。 宝治2年5月27日源通忠と遺跡相論のことあり(『百鍊抄』)。
藤原原子	従二位	惟野禪尼	宝治2年12月1日、前関白良実の息道玄、出家する(『門葉記』)。
藤原淑子	准后 従一位		西園寺公経女。藤原道家室。 建長3年11月14日死去(『百鍊抄』)。
某女		大北政所	少将通能朝臣の娘。深心院関白基平に嫁ぎ、位子(新陽明門院)を産む。 弘安3年4月20日、逆修始まる(『統史愚抄』)。弘安6年5月9日、春日社に詣でる(『統史愚抄』)。
藤原教子		太秦禪尼	太政大臣公相の室。今出川院嬉子の養母。 弘安6年8月13日、十三年遠忌(『公衡公記』)。
藤原貞子	准后 従一位	今林准后 北山准后	大納言隆衡の娘。太政大臣西園寺実氏に嫁ぎ、姑子(大宮院)、公子(東二条院)を産む。 弘安8年2月、北山第にて准后の九十賀が催される(『統史愚抄』、『増鏡』)。
某女			長橋妻。 弘安10年11月26日、関東より金450両、絹綿等。(長橋妻に従い、藏人藤原説春取り入ると云う)(『統史愚抄』)。
中原某女			中原師朝の娘。 弘安11年正月3日(公衡祖母)(『公衡公記』)
藤原某女		禪尼	宇都宮頼綱の娘。内大臣通成の室となり、通頼を産む(『尊卑分脈』、『公衡公記』)。弘安11年正月3日、公衡の訪問を受ける(『公衡公記』)。
源某女			堀河具守の娘。源基子の妹。正安3年10月28日御禊。女御代を務める(『増鏡』)。
某女			左馬頭光保の娘。 公衡家の女房。乾元元年正月20日、娘寧子が伏見院猶子となる(『統史愚抄』)。
藤原臧子	従三位		『尊卑分脈』では「臧子」、『女院小伝』では「臧子」。大納言隆房の娘。左大臣実雄に嫁ぎ、惜子(玄輝門院)を産む。 嘉元2年5月27日、死去(『統史愚抄』)。
藤原瀧子			四条隆衡女。 左大臣従一位藤原道良を産む(『帝王編年記』)。
某女			通能の娘。信子の母(『統史愚抄』)。

某女			長雅の娘。 出家(『一代要記』)
某女	准后		相公の娘。 姨子内親王の母(『帝王編年記』)。
藤原某女		猪隈関白家 按察局	兵部卿忠行の娘。実父は藤原伊忠卿(『尊卑分脈』)。 猪隈関白家に女房として仕え、後に藤原家実の妾となる(『尊卑分脈』)。照念院撰政太政大臣従一位藤原兼平、大僧正慈禪を産む(『帝王編年記』)。
藤原某女			中納言行光(宗行)の娘。左大臣藤原忠経の室。 右大臣定雅を産む(『帝王編年記』、『尊卑分脈』)。
平某女			中納言親宗の娘。西園寺公経の室。 右大臣正二位藤原実雄を産む(『帝王編年記』)。
藤原恩子	従三位		藤原定季(本名 資能)の娘。撰政関白九条教実の室。 関白左大臣従一位忠家、大乘院権僧正尊信を産む(『帝王編年記』)。
藤原某女		按察使	藤原定高の娘。藤原定雅の室となり、内大臣正二位藤原通雅を産む(『帝王編年記』)。
藤原某女			藤原通雅の娘(『統史愚抄』)。
藤原某女			藤原実有の娘。藤原兼平の室となり、関白左大臣従一位藤原基忠を産む(『帝王編年記』)。
藤原某女			藤原親仲の娘。藤原良実の室となり、左大臣従一位藤原師忠を産む(『帝王編年記』)。
某女			重時の娘。 左馬権頭権相模守平時宗を産む(『帝王編年記』)。
藤原某女		潮音院尼	藤原義景の娘。平時宗の室となり、相模守兼左馬頭平貞時を産む(『帝王編年記』)。潮音院尼と号す。
源某女			源兼教の娘。藤原良平の室となり、本覚院権僧正最源(天台座主)を産む(『帝王編年記』)。
源某女			少納言源重房の娘。 藤原道家の室となり、天台座主僧正慈実を産む(『帝王編年記』)。
某女			政村の娘。 相模守平師時を産む(『帝王編年記』)。
北条政子	二位		遠江守時政の娘(『尊卑分脈』、『樵談治要』)。
藤原某女			松殿宰相中将兼嗣の孫娘。母は新陽明門院位子。はじめ富小路中納言季雄に嫁いたが、後に鷹司兼忠の子、三位中将基教に嫁ぐ(『増鏡』)。新陽明門院に愛され、その遺産を多くもらう(『増鏡』)。
藤原季子	従二位	南御方	太政大臣良平の娘。左大臣実泰に嫁ぎ、洞院公賢を産む。 後二条天皇乳母(『尊卑分脈』)。後、入道中納言公雄と密通する(『尊卑分脈』)。↓主要女房表(後深草朝)

【資料一覽】

『大日本史料』 第五編之十九、第五編之三十二（東京大学史料編纂所編纂）

『訳註大日本史』 第三卷 列伝（大日本史普及会編纂）

『日本史総覧』 第I巻 考古・古代一（児玉幸多、小西四郎、竹内理三監修 新人物往来社）

〔日記類〕

『後深草院御記』（増補史料大成『歴代宸記』所収）

『伏見天皇宸記』（増補史料大成）

『岡屋関白記』（大日本古記録）

『葉黄記』（史料纂集）

『経俊卿記』（図書寮叢刊）

『平戸記』（増補史料大成）

『吉統記』（増補史料大成）

『勘仲記』（増補史料大成）

『公衡公記』（史料纂集）

『実躬卿記』（大日本古記録）

『園太暦』（史料纂集）

『弁内侍日記』（新編日本古典文学全集『中世日記紀行集』所収）

『中務内侍日記』（新日本古典文学大系『中世日記紀行集』所収）

〔歴史書・年代記類〕

『百鍊抄』（新訂増補国史大系）

『五代帝王物語』（中世の文学）

『皇代記』（群書類従）

『一代要記』（改定史籍集覧）

『帝王編年記』（新訂増補国史大系）

『増鏡』（日本古典文学大系）

『神皇正統記』（日本古典文学大系）

『歴代皇紀』（改定史籍集覧）

『続神皇正統記』（群書類従）

『皇年代略記』（群書類従）

『続史愚抄』（新訂増補国史大系）

[系譜類]

『皇胤系図』(続群書類従)

『本朝皇胤紹運録』(群書類従)

『諸門跡譜』(群書類従)

『尊卑分脈』(新訂増補国史大系)

[その他]

『常楽記』(群書類従)

『女院記』(群書類従)

『將軍執權次第』(群書類従)

『後宮略伝』(続群書類従)

『女院小伝』(群書類従)

『本朝女后名字抄』(群書類従)

『仁和寺御伝』(群書類従)

『本朝諡号雜記』(群書類従)

『院号定部類記』(続群書類従)

『公卿補任』(新訂増補国史大系)

☆小稿は、『とはすがたり』の資料として作成したため、『とはすがたり』は調査対象から省いた。

(本学大学院博士後期課程)